

## 2014-15 年度 グローバル補助金奨学生 報告 イギリス ヨーク大学大学院 宗盛千枝 呉 RC 推薦

ヨークでの生活も早1か月半を過ぎました。慌ただしくも学びの濃い毎日をご過ごしております。

### (1) ロータリーに関する活動

去る10月18日土曜日、ヨークから車で一時間ほど北に位置する港町 Scarborough にて the Rotary District Conference (地区大会) が開催されました。私もカウンセラーの David Hirst 氏と共に前日から現地入りし、夜のパーティーから参加させていただきました。ロータリーアンの方々やビートルズ等のライブ音楽に合わせて踊るのを見ながらイギリス式のディナーに舌鼓を打つことは初めての体験であり、また印象的な時間でした。地区大会当日は、ステージにて地区内のクラブが活動報告を行ったり、大広間で慈善事業のブースを出展したりしていました。活動報告のなかには、ロータリー・ピースフェローとして現場で働き、その経験と学びを話される方が二名（うち一名は英語圏出身）おられ私自身の将来のキャリアを想像するうえで大変刺激的でした。特に感銘を受けたのは、英語が母語ではないにも関わらず堂々とよく構成を練られたスピーチをされた方の話しぶりです。英語が母語でないことを、授業中に積極的に発言できないことの言い訳にしつつある自分を自覚しておりましたので、自分に喝を入れ直す機会になりました。また私にも彼女のようになれる可能性がある、と感じられたことは今でも大きなモチベーションとなっています。

カウンセラーの David さんは親切な方で、ヨークに到着後すぐにヨーク市内の城壁周辺を案内してくださいました。ヨークはバイキング時代から残る城壁と古い歴史が有名です。困ったことがないかどうか、こまめに連絡をくださるおかげで、今のところ何不自由なく生活を送ることができています。大変感謝しています。

### (2) 学業に関して

私が所属する戦後復興学コースは、短期集中的なカリキュラム構成です。11月下旬から12月上旬の2週間にわたるボスニア研修に加えて、3月からは6週間から8週間のワークプレイズメント（海外機関でのインターンシップ）をする必要があります。そのため教室で授業を行える期間が限られているため、短期間で集中的に授業を行うのです。9時から17時まで授業を受ける日々は体力的にかなり大変です。しかし現場経験豊富な講師を外部から招いての講演や、幅広い分野の講義を22人という少人数のクラスで受けられることはかなり幸運だと思っています。毎日の予習は大変ですが、これも将来のタイムマネジメントの練習だと思い、楽しみながらこなしています。直近の目標としては、修士論文のリサーチクエストを明確化することです。

